

プリント・メディア・アカデミーが考える印刷人材教育（要旨）

ハイデルベルグ・ジャパン(株) サービス本部PMA部 上島光治

1. はじめに 弊社の印刷教育の歴史は古く、前身の印刷機械貿易(株)が、ショールームの印刷機械を使用して操作を指導する「プレスマンスクール」を1960年にスタートさせ、延べ7000人以上の技術者を輩出している。この長い歴史の中で、弊社の取り扱い製品も印刷機械だけにとどまらず、印刷業界全般にわたる規模に変貌してきた。私どものスクールも「プリント・メディア・アカデミー」と名前を変え、現在では12コースを開催し、印刷業界の様々な分野に対する人材育成を支援している。弊社では、印刷物を効率的に、かつ品質の高いレベルで生産できるようなソリューションを提供し続けてきたが、これらも、オペレーターが使いこなせなければまったく意味が無い。優れたソリューションを提供し続けるのももちろん重要ではあるが、それらを使いこなすための質の高いオペレーター教育も並行して提供し続けることが、非常に重要である。

2. オペレーター教育の必要性 印刷機械の操作がデジタル化により簡素化されている背景には、技術的な部分での力量や職人的な勘や経験の部分を除くことにより、誰でも操作できて、なおかつ標準的に印刷できるようにという考えがある。しかしその反面、印刷機械の原理原則を身につけているオペレーターが少なくなった事によって、印刷品質や生産性の低下を招いている事も実状である。さらに最近、「2007年問題」に代表されるベテラン社員引退による、「人手不足」、「技術の断絶」といった問題も顕著となっており、オペレーターへの印刷基本原理の教育は、早急に手を打たなければならない切迫した問題である。人材教育は、企業存続の根幹をなす重要な要素であり、企業の責務でもある。その責務を果たす支援策として研修コンテンツの充実を図り、人材の育成を促進することが私どもメーカースクールの使命であり、役割であることは言うまでもない。

3. 印刷生産性の低下を避けるために ~オペレーターの不変の原則~ 弊社では様々なコンテンツを提供しているが、若手オペレーターへ特に受講を推奨したいのが、印刷生産性の低下を避けるための教育である。生産性の低下についての要因の多くは、印刷機械のメンテナンスの不備が絡んでいると思われる。長期間にわたって安定した性能・生産性を維持し、最新技術の安定した運用を実現させるためにも、メーカーが推奨するメンテナンスは是非実施してもらいたい。これはどんなに印刷技術が発展しようと、印刷オペレーターとしての昔から不変の原則であり、伝承していかなければならない基本技術である。

4. コンサルティングの必要性 オペレーター教育による効果が時にはなかなか思うように見えてこない場合がある。そのような場合は現場のコンサルティングが必要となってくる。つまり、オペレーターの意見を聞きながらの現場状況に応じた教育である。この形態が、メーカースクールとしての究極かつ最も効果の上がる形ではないかと考え、弊社では、印刷とカラーソリューションに関するコンサルティングサービスを開始している。メーカースクールも業界の需要に対し、フレキシブルに発展し続けていく事が求められているのであり、また、それに応えなければならないのである。

5. 終わりに 近年の印刷技術の進歩により、自動化、数値管理がいかに進んでもオペレーターが不要になるわけではなく、有能なオペレーターは、絶対に欠かす事はできない。結局、オペレーターのスキルにより、はじめて様々な最新技術が活かせるのである。つまり、自動化や数値管理が進んでも、オペレーターの経験、専門知識、最良の判断があつてこそ、はじめて高い品質が得られるという原則は変わらない。その観点からも、印刷技術の教育と伝承は会社経営のキーポイントになるわけであり、メーカーとしては、万全な教育サポート体制が必要不可欠なのである。印刷技術伝承の問題は非常に難しい問題ではあるが、業界発展のためには避けて通れない問題として印刷業界全体で認識し、人材教育に時間を割くことの重要性を理解してほしい。今後も機械性能だけに頼らない「印刷業界人」としての立派なバックボーンを持った人材育成に努力する所存である。